

新書『エコツーリズムは奥入瀬観光を変えうるか』および 新書『奥入瀬でネイチャーガイドが語ること』発刊のご案内

青森県では、国道 103 号青樺山バイパス完成後の奥入瀬溪流沿い現道（国道 102 号）の新たな利活用形態について検討を進めており、奥入瀬溪流の有する原生的な自然環境の魅力と価値の発信にも取り組んでおります。

この度、その一環として、別添のとおりフィールドミュージアム新書Ⅱ『エコツーリズムは奥入瀬観光を変えうるか』及び同Ⅲ『奥入瀬でネイチャーガイドが語ること』を制作いたしましたので、ここにお知らせを申し上げます。

両書は、バイパス完成後の奥入瀬溪流が目指すべき方向性や、実際の現役ネイチャーガイドがどのようにツアーを行っているかテキスト化した他に類書のない本となっております。

報道機関各位におかれましては、周知及び報道方についてご配慮いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、本書は関係各位への配布を行ったのち、奥入瀬溪流におけるエコツーリズム振興を目的とした一般販売も予定しております。本書の内容及び販売についての詳細につきましては、制作元であります下記法人へお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

問い合わせ先

【編集制作元】

NPO 法人奥入瀬自然観光資源研究会
理事長 丹羽 裕之
（電 話）0176-23-5866
（メール）info@oiken.org

※なお野外案内業務による事務所不在が多いことから
なるべくメールでのお問い合わせをお願いしています

報道機関用提供資料	
担当課 担当者	県土整備部道路課 整備推進G 能登谷 武範
電話番号	直通：017-734-9651 内線：6830
報道監	県土整備部 理事 米田 均

フィールドミュージアム新書Ⅱ『エコツーリズムは奥入瀬観光を変えうるか』



【 内 容 紹 介 】

保護区ながら観光地であり、観光地でありながらも保護区である奥入瀬。自然を学ぶ旅＝エコツーリズムこそ、この地にふさわしい観光スタイルです。本書は「奥入瀬観光はこれからどこを目指すのか」という主題のもと、エコツーリズムという理念をベースとした野外博物館構想をビジョンとして提案、その実現化のためにはどうしたらよいかについて思考した「バイパス開通後の奥入瀬」の未来予想図です。歩くだけ・流し見するだけの観光地から、「観る」を味わう野外博物館を目指すための新書シリーズ第二弾！

フィールドミュージアム新書Ⅲ『奥入瀬でネイチャーガイドが語ること』



【 内 容 紹 介 】

奥入瀬に〈野外博物館〉という新たなブランドを構築し、エコツーリズムの隆盛をはかる—そのためには自然を読み解く楽しさを伝え、潜在的な関心層を〈覚醒〉させる役割を担うネイチャーガイドの存在が不可欠です。本書は、奥入瀬ガイドツアーの一部始終を収録、現地で実際にどのような案内をしているのかをテキスト化した画期的な一冊であると同時に、これからガイドを目指そうという人にとっては他に類のない教本となっています。歩くだけ・流し見するだけの観光地から、「観る」を味わう野外博物館を目指すための新書シリーズ第三弾！